

第6回くらす部会会議録

日 時	2017年10月16日(月) 13:30~15:30
場 所	地域連携交流施設2階 会議室
テーマ	1、本日参加メンバー 2、協議課題 3、その他 4、次回開催日の調整
内容	<p>1、参加メンバー：11名</p> <p>2、協議課題</p> <p>○障害者計画について</p> <p>まもる：相談体制の充実：総合的な相談支援の推進</p> <p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族、親族 ・病院 ・役場・行政 ・知人、友人 <p style="margin-left: 150px;">} アンケート結果より分かる</p> <p>不足、課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談しても解決につながらない ・どこに相談したら良いか分からない ・総合的な窓口がない <p>取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談場所の紹介 ・関係機関 ネットワークづくり ・何でも言える場所を持つことができる ・情報発信 ・予算UP、賃金UP <p>まもる：相談体制の充実：専門職種の育成・確保</p> <p>現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談支援事業所が町内に少ない ・相談支援体制の周知がされていない ・広報の相談窓口はたくさんあるが、どこに何を相談していいか分かりづらい ・相談窓口がうまく活用されていない <p>不足・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材不足 ・担当者の負担が大きい(それぞれ) ・各機関との連携ができていない 関係機関での役割分担と連携 <p>取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トライやる等、中高くらいから興味をもってもらおう(職業・福祉に) ・人材育成 ・若者を呼び込むための、予算UP 賃金UP <p>まもる：相談体制の充実：ボランティアの育成</p>

現状

- ・9割がボランティアに参加したことがない
- ・何からしたらよいかわからず参加していない 40%
- ・思いはあるが参加したことがないひと 80%

不足・課題

- ・80%の人をどうボランティアにつなげるか

取組み

- ・スポーツ、文化、外出、移動のボランティアに興味が多い
→活かす活動を企画発信 広報
- ・窓口の一括化とそれをにう人材育成
- ・参加者に登録・ポイント等でやる気を引き出す

まもる：防災・防犯への対応：防犯・交通安全対策の推進

- ・交通安全教育(自転車・歩く人・車・車いすの人のルール)
- ・音声案内
- ・町内を歩いて道を知る
- ・道路交通法などルールの研修が必要

まもる：防災・防犯への対応：緊急時における安全確保

- ・緊急医療キットの備え、安心キーホルダー
- ・FAX・メールによる通報の体制
- ・行方不明のとき、探してもらえやすい写真
- ・特徴をまとめたもの(ヘルプカード・家族情報)

まもる：防災・防犯への対応：災害時の対処に向けた啓発

- ・避難訓練に参加
- ・災害時準備
- ・防犯・防災の啓発
- ・訓練時に合理的配慮の学習
- ・非常用持ち出し袋を訓練時に持参し点検

まもる：防災・防犯への対応：避難支援計画及びマニュアル作成支援

- ・サービス等利用計画に避難計画を作成する
- ・避難所運営マニュアルに合理的配慮について周知

まもる：防災・防犯への対応：ヘルプマーク・カードの普及啓発

- ・啓発やポスターの掲示等いろいろな場で周知

くらす：地域生活の充実：在宅福祉の充実

- ・男女年令様々なヘルパー
- ・アウトリーチ型支援(医療)
- ・OT・PT・ST が家に来る
- ・タクシー利用希望者が多い。外出の手段が少ない
- ・計画相談の周知が少ない
- ・計画相談を利用しているが、本人家族らは利用している意識が少ない。利用状況の%が低い
- ・障害者・高齢者の 重症化に対応

- ・在宅を充実し、障害者の自立と社会参加

・自立と社会参加がなければ、その人らしく暮らせない

くらす:地域生活の充実:居住・生活の場の確保

- ・親と一緒に暮らせる
- ・一人で暮らせサポートが付いている
- ・グループホーム、親子で入れる場所
- ・夜間のショートステイ
- ・年齢が上がると施設入所の利用希望が増える
- ・年齢が上がると誰かと一緒に暮らしへの思いに変わる
- ・幼少は自立への思いが強いが年齢と共に、現実的な誰か見守りのある生活に変わる
- ・県住とかの優先利用
- ・見守り・世話をしてくれる人

くらす:地域生活の充実:集える場づくり

- ・障害のある人が安心して集える場 →土日地域活動センターの利用 世話人ボランティアの確保
- ・本人活動の場、カフェ付
- ・歩いて通える場 遅くまで居られる場
- ・いつでも参加できる
- ・障害のある人だけでなく、いろんな人が集まる場
- ・親と子が一緒に活動することで関わり方を学ぶ場
- ・関係機関との連携

くらす:重度心身障害児者の支援の検討

- ・訪問医療・看護などアウトリーチ
- ・移動支援・親の介護負担の軽減
- ・医療と密な関係

くらす:地域移行・定着支援の検討

- ・退院・退所時に連絡(行政) 福祉サービス利用について説明
- ・医療と福祉の連携
- ・相談窓口の周知

くらす:生活環境の整備:公共施設等のバリアフリー化の推進

現状

- ・公共交通機関がわからない
- ・通路が狭い
- ・エレベーターがない駅がある
- ・車内アナウンス等がわかりにくい

今後の取組み

- ・図・絵による案内方法の常設

くらす:生活環境の整備:住環境改善のための支援

現状

- ・精神障害だと不動産屋さんから断られる
- ・こだわり・ルーティンがきつい
- ・掃除をしてほしい
- ・家族以外の支援者の不足
- ・住む場所の選択肢がない

今後の取組み

- ・日中一時の利用しやすい環境に
- ・県住マッチング事業の拡大・活用
- ・夜間支援の整備
- ・近所の理解

くらす:生活環境の整備:移動支援の充実

現状

- ・長時間対応してくれる所が少ない
- ・土日がとれない
- ・事業所が少ない
- ・受けてくれるところがない
- ・ヘルパーさん 特に男の人が少ない
- ・夜間移動が多い

不足・課題

- ・タクシーでしか移動しない

今後の取組み

- ・支援者に適切な報酬を
- ・ボランティアの活用
- ・CTMR(Come To My Rescue)体制の構築

3、その他

○

4. 次回開催日の調整

H29年10月16日(月) 13:30~15:30 地域連携交流施設